

## 長崎市提案型協働事業提案企画書

団 体 名	NPO 法人 長崎斜面研究会
提案事業の名称	斜面市街地の街路を含む住環境改善のための住民ワークショップ開催事業
提案事業の目的	長崎市内の斜面市街地の多くの地区では、車両が進入できる道路が著しく不足している。こうした課題を根本的に解決するためには、車が進入できる生活道路の整備が必要であるが、それを実現するためには様々な課題が存在し、なかなか実現に至らないのが現状である。斜面地区の中には、勾配が急なタテ道（等高線に直交するような細街路）が多く分布し、勾配が緩いヨコ道（等高線に沿うように配置された細街路）が不足している状況が多くみられる。このような地区の状況が住民の高齢化と相まって、日常生活を送る上での大きな問題となっている。したがって、細街路網を含む地区の住環境を改善することによって、住民の生活の利便性を向上させることが期待される。また、必要な箇所には、提案団体が開発している住民の階段道路の移動を支援するための小型の装置の導入を検討する。地区住民と事業者、行政とが協力してこうした街路等の地域の課題を発見し、さらにワークショップを開催して地区の住環境の改善策について具体的に検討することが本事業の目的である。なお、この事業は斜面市街地における住環境の小規模改善のモデルケースとして捉えられる。
課題の 緊急性・重要性	長崎市内の斜面市街地の中には、中心市街地に比較的近接している地区も多い。それにもかかわらず、道路や公園などの社会基盤の整備が遅れているため、人口減少や少子・高齢化が急激に進行している。多くの地区において、空き地・空き家が増加し、単身の高齢者世帯も増えていることから、これらの地域の活性化のための取り組みが緊急の課題となっている。
協働の必要性	長崎市まちづくり推進室は、これまで斜面市街地のまちづくりに関する多くの課題に取り組んできており、各地区における詳細な現状や課題を把握している。また、地区の活動を運営している町内会、老人会、子供会などに関する人的情報も収集している。今回提案する事業を推進するためには、これらの情報の入手が不可欠である。また、こうした地区のインフラ整備を推進するためには、行政との緊密な連携が不可欠である。
協働による 相乗効果	今回事業を提案している団体には、医療関係者、福祉関係者、建築・土木の専門家、機械や情報工学の専門家などの多様な人材が所属している。これまでも斜面市街地における住環境改善のための様々な提案をしており、住民の個別のニーズにも対応してきた。このような団体が有する様々なノウハウと、市の担当部署が有するノウハウを互いに活用することにより、斜面市街地のまちづくりの活性化に貢献することができると考えられる。
協働の役割分担	1. 提案団体が果たそうとする役割 愛宕3丁目地区内の状況を住民と一緒に調査し、まちづくりに関する講座、講演会およびワークショップを開催する。これらの協働事業をとおして、地区の課題と対応策を検討することを目指す。本提案団体は、こうした一連の事業において、住民の具体的な活動を支援する。

協働の役割分担	<p>2. 本市に期待する役割</p> <p>上述した一連の事業の推進に際し、市が有している様々な情報提供をお願いしたい。また、調査やワークショップにおいて、市の担当部署にも参画していただき、行政の立場からの意見やアドバイスを受けたい。</p>
提案事業の内容	<p>1. 調査事業</p> <p>目的：地区の住民の生活状況等や細街路等の状況と課題を把握し、その内容を住民と共有する。</p> <p>内容：愛宕3丁目の住民の生活状況、住民の健康、地区に対する住民の意識、地区における各種団体の活動状況、地区の細街路網等の現状を調査し、それらの現状と課題を把握する。</p> <p>実施日程：平成26年4月～6月（7回）、10月～12月（3回）</p> <p>参加予定数：5～10人/回（スタッフ5人/回）</p> <p>実施場所：愛宕3丁目全域</p> <p>予算額：165,000円</p> <p>2. 各種講座の開催事業</p> <p>目的：まちづくりに関する基本的な考え方や住民の健康に対する知識を、地区住民に理解していただく。</p> <p>内容：地区の住民が集まりやすい地元の会場で、まちづくりに関するいくつかの講座や健康教室などを愛宕3丁目の住民と事業者、行政とが協力して開催し、多くの地域住民に参加を促す。</p> <p>実施日程：平成26年7月～12月（4回）</p> <p>参加予定数：20～30人/回（スタッフ5人/回）</p> <p>実施場所：小島地区ふれあいセンター</p> <p>予算額：126,000円</p> <p>3. 講演会開催事業</p> <p>目的：地区住民、事業者、行政担当者は勿論、市民一般にまちづくりやワークショップに関する情報を提供する。</p> <p>内容：外部から講師を招き、まちづくりやワークショップに関する情報提供を行う。</p> <p>実施日程：平成26年10月、平成27年12月</p> <p>参加予定数：200人/回（スタッフ10人/回）</p> <p>実施場所：市の公共施設</p> <p>予算額：396,000円</p> <p>4. ワークショップ開催事業</p> <p>目的：地域の細街路網等の現状や課題を明らかにし、その内容を住民、事業者、行政が共有する。また、その改善策を検討し、改善計画を立案する。</p> <p>内容：愛宕3丁目地区の細街路網の現状と課題について、住民、事業者、行政が議論し、改善計画を立案するためのワークショップを開催する。</p> <p>実施日程：平成26年4月～平成27年3月（8回）</p> <p>参加予定数：20～30人/回（スタッフ10人/回）</p> <p>実施場所：小島地区ふれあいセンター</p> <p>予算額：304,000円</p>

<p>提案事業の 実施体制</p>	<p>1. 総括責任者：平野啓子</p> <p>2. 個別事業責任者          調査事業責任者 中尾理恵子（専従者3人、ボランティア2人）          講座開催事業責任者 佐藤 恵（専従者3人、ボランティア2人）          講演会開催事業責任者 杉山和一（専従者3人、ボランティア7人）          ワークショップ開催事業責任者 杉山和一（専従者3人、ボランティア7人）</p> <p>3. 事業実施にあたっての専門性やノウハウ          地区のインフラ整備や住民の生活・健康に関する調査については、中尾や杉山がこれまで多くの実績を重ねている。また、各種講座の開催については、佐藤がこれまでに経験を有している。さらに、講演会やワークショップの開催についても、杉山がいくつかのケースの実施に関わっている。</p>																									
<p>事業 スケジュール</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>第1四半期 4～6月</th> <th>第2四半期 7～9月</th> <th>第3四半期 10～12月</th> <th>第4四半期 1～3月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>調査</td> <td>準備・実施</td> <td></td> <td>準備・実施</td> <td></td> </tr> <tr> <td>講座</td> <td>準備・広報</td> <td>準備・開催 (2回程度)</td> <td>準備・開催 (2回程度)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>講演会</td> <td></td> <td>準備・広報</td> <td>第1回開催</td> <td>第2回開催</td> </tr> <tr> <td>ワークショップ</td> <td>2回開催</td> <td>2回開催</td> <td>2回開催</td> <td>2回開催</td> </tr> </tbody> </table>		第1四半期 4～6月	第2四半期 7～9月	第3四半期 10～12月	第4四半期 1～3月	調査	準備・実施		準備・実施		講座	準備・広報	準備・開催 (2回程度)	準備・開催 (2回程度)		講演会		準備・広報	第1回開催	第2回開催	ワークショップ	2回開催	2回開催	2回開催	2回開催
	第1四半期 4～6月	第2四半期 7～9月	第3四半期 10～12月	第4四半期 1～3月																						
調査	準備・実施		準備・実施																							
講座	準備・広報	準備・開催 (2回程度)	準備・開催 (2回程度)																							
講演会		準備・広報	第1回開催	第2回開催																						
ワークショップ	2回開催	2回開催	2回開催	2回開催																						
<p>事業の展望及び 今後の活動展開</p>	<p>今回提案している事業はモデルケースとして実施している。したがって、この事業を他の斜面市街地に適用できるかどうかを検討し、適用できる地区を設定して事業を展開する。こうした活動を市内の斜面市街地に広げることにより、各地区の住環境改善に寄与する。</p> <p>また、愛宕3丁目地区においては、次の段階の地区の活性化方策として、空き地・空き家などの活用策等に関して検討を始める。具体的な今後の活動内容は以下のとおりである。</p> <p>★空き地・空き家の現状調査を経て、その活用方法を検討し、住民や他の市民団体などと協議しながら実現化を図る。</p> <p>◇空き地：生ごみをたい肥化して、自然農法の畑や無農薬の果樹園に活用する。          子供が遊べ、高齢者が憩える緑溢れるスペースとして利用する。</p> <p>◇空き家：リタイアした専門家や学生のマンパワーを活用して、使えそうな空き家をリノベーションする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・クラフトやアートの拠点として活用する。</li> <li>・空き地で収穫した野菜や果物の販売所を設置し、利用する。</li> <li>・市民や観光客が興味をもって訪れるような、景観を活かした魅力的なカフェやレストランやドミトリーを誘致する。</li> </ul> <p>★斜面地の魅力を発信し、新たな定住世帯の呼び込みを図る。</p> <p>◇住むだけで健康に！斜面地で毎日エクササイズ！</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・専門家の指導のもと、坂や階段の健康に有効な昇り降りの方法をわかりやすくまとめた冊子を作成し、広く市民に配布する。</li> <li>・「長崎坂段リュック」のデザイン公募し、製品化する。</li> </ul>																									